

公民的分野観察法による評価

東京都銀座中学校 仲村 秀樹

1. 観察法による評価のポイント

公民的分野の学習指導の評価においては、これまでの結果の評価から、学習過程の評価に重点を変えなければならない。その際、一人ひとりの生徒を観察するという視点から、一人ひとりの生徒のチェック表を作成し、毎授業においてチェックするという方法も考えられる。しかし、毎授業そのようなチェックを行うことは、物理的に不可能であり、評価のための授業のようになってしまうおそれもある。そこで、次のように学習する单元ごとに、レポートを提出させ、その評価を通して授業における観察に換えることを提唱する。

現代日本の歩みと私たちの生活(高度経済成長以降の社会) レポートの自己評価表例 ○…1 ×…0

3年 組 番 氏名 A君	↓生徒自己評価	
1 ①課題設定の理由が明確に述べられているか。【関心・意欲・態度】	○	○
2. 意見表明がなされているか。		
②ア 自分の意見が明確に述べられているか。【思考・判断】	○	○
③イ 他人の意見を参考として取り入れているか。【思考・判断】	○	△
3 ④社会的事象に対して多角的・多面的な考察がなされているか。 (反対意見に対する反論が含まれているか。) 【思考・判断】	×	△
4. 課題に対する調査活動がなされているか。		
⑤ア 意欲的に行った。【関心・意欲・態度】	○	○
⑥イ かなり調査を行った。【関心・意欲・態度】	×	○
5. 資料が貼付されているか。		
⑦ア 「現代日本の歩みと私たちの生活」配付資料が貼付されているか。 【資料・表現】	○	○
⑧イ 新たな資料が貼付されているか。 (新聞記事や参考図書のコピー等) 【資料・表現】	○	○
6 ⑨全体的なまとまりがある。【知識・理解】	○	○
7 ⑩特に工夫が見られるか。【関心・意欲・態度】	○	○
合計	評定	B A
前回の反省が生かされたか…		教師の評価 ↑
「総合的な学習の時間」の反省を生かし、よいレポートを作成することができました。		

評 定

A : 9 ~ 10	-----	100
B : 7 ~ 8	-----	75
C : 5 ~ 6	-----	50
D : 3 ~ 4	-----	25
E : 1 ~ 2	-----	0 ~ 20
F : 0 ・ 未提出	-----	0

〈レポートの評定の感想および次回レポートへの決意〉

調べたことをまとめるのは大変だったけれど、自分なりに意見がもててよかったです。今回のレポートでは、調査内容に関する資料が少なかったもので、次回では、もっとくわしい内容まで調査し、資料集めを積極的にしたいです。

- ・高度経済成長以降の国際社会におけるわが国の役割の変化を考えようとしている。
- ②〔社会的な思考・判断〕
- ・高度経済成長から今日までのわが国や国際社会の諸事象から「国民生活の向上」などの観点を踏まえた課題をみいだしている。

- ・国際社会におけるわが国の役割について、多面的・多角的に考察している。
- ・国際社会におけるわが国の在り方について政治的、経済的などさまざまな観点から公正に判断している。

（２）評価の実際例—A君の場合—

① 課題設定の理由…○

自分自身がこの世界で生活して15年。その年月の間にさまざまなことを学びました。その中の一つとして男女が同じように働いていないという事実も学びました。

この事実はいつから始まり、どのくらい続いているのか、なぜそのようなことが起こってしまったのか、そのことに対する対処法はあるのか、といったことに興味・関心をもち、ぜひとも調べたいと思ったのでこの課題にしました。

② 調査前の自分の意見

男の人も女の人も同じ人間であり、言葉も一緒だし、住居も食事と同じです。それなのになぜ同じように働けないのか。昔の武士の名残なのだろうか。それとも体力的あるいは、パワーの差なのだろうか。実際問題、男性と女性では、体力的にも力の差にしても違いはあると思います。しかし、それだけのことで、男性は働いてよく、女子は働くなということになるのはおかしい。これでは、本当の男女平等ではないと思います。（以下省略）

③ 調査後の自分の意見…○

これからの世の中（社会）は、セクハラや男女差別について、もっともっと真剣に考えるべきであるし、その上で何らかの対処をしなければならないと思います。その対処が男女雇用機会均等法などの現在の法律ならば、まだまだ十分でないと考えます。何度も繰り返しますが、今はまだ本当の男女平等ではないと思います。ですが、それらを改善するように努めることが僕たちの世代の役目の一つなんだろうと思いました。

（３）自己評価、相互評価の活用

生徒が学習者であり、評価者であるという視点から自己評価を積み上げていきたい。教師による評価と同じレベルの自己評価ができるような生徒を育成したい。また、自己評価用紙と同じような相互評価用紙を活用し相互評価することにより、生徒への相互の励ましや自己評価能力を育成することができるので相互評価を活用したい。

3. 評価から評定へ

自己評価や相互評価も考慮して、生徒からのレポートや今までに行った定期テスト結果などの評価資料をもとに、評価結果から評定を出さなければならない。右表は評価基準、評価割合、評価方法、観点別評価、評定の実例である。

3年生 社会科（公民） 組

観点	関心・意欲・態度 25% (27%)			思考・判断 25% (23%)			資料活用・表現 25% (27%)			知識・理解 25% (23%)			評定							
	態度	意欲	態度	思考	判断	思考	資料	活用	表現	知識	理解	知識								
評価方法の項目	態度	意欲	態度	思考	判断	思考	資料	活用	表現	知識	理解	知識	合計							
配点	20	10	10	40	80	20	20	30	70	30	10	20	20	80	50	10	10	70	300	
No.氏名																				
1	10	5	5	20	40	15	0	5	20	25	10	10	20	65	50	5	10	65	190	3
2	10	5	5	20	40	17	0	10	27	25	10	10	15	60	48	10	10	68	195	3
3	20	5	5	15	45	18	10	5	33	23	10	20	5	58	48	0	10	58	194	3

(期末考查 100) + (レポート100) + (発表 40) + (態度・発言等 60) = (合計 300) * A…80%～; B…20%～; C…19%
 評定 5=90%～; 270～; 4=75%～; 225～; 3=50%～; 150～
 2=20%～; 60～; 1=19%～; 59